

2021 焦点・論点 コロナ禍と資本主義：貧富の格差拡大

ミリオネアズ・フォー・ヒューマニティー創設者 ジャファー・シャルチさん

より良い社会を後世に残すため 私たち富裕層に課税しなければ



2020年7月、世界の富豪でつくる団体「ミリオネアズ・フォー・ヒューマニティー」が新型コロナウイルス危機を打開するため各国政府に富裕層への課税強化を求める公開書簡を出しました。書簡に賛同する富豪は当初の80人余から増え続け、30日現在、欧米を中心に13カ国112人に上ります。団体の創設者である起業家のジャファー・シャルチさん（60）に活動の原点と意義を聞きました。（小村優）

一公開書簡のきっかけを教えてください。

私たちはいま未曾有の危機に直面しています。コロナ禍は貧富の格差を浮き彫りにしました。昨年1年間で、世界の超富裕層が巨額の利益を得た一方、1億人近くの人々が極度の貧困に陥りました。

資本主義システム、新自由主義システムは壊れています。不平等が悪化すれば世界はもっと不安定になるでしょう。すべての人に利益をもたらす新しいシステムを確立しなければなりません。

公開書簡には「コロナ禍を打開するため資金面で解決の一助になりたい」という思いを込めました。各国政府に対し「お願いだから私たちに課税を」と訴えています。

ミリオネアズ・フォー・ヒューマニティーは、1%の富裕層課税を提唱する富豪の国際組織です。コロナ禍からの回復、貧困と気候危機などに対処するため恒久的な課税制度の確立を求めています。

特に国連の持続可能な開発目標（SDGs）の達成には多額の資金が必要です。国連は、発展途上国で年間約2・5兆ドルの資金が不足すると試算しています。

世界の億万長者の資産は推定約10兆ドルです。上位1%の富裕層にたった1%課税するだけで毎年約1000億ドルを得られます。世界が直面する危機を解決する上で彼らは解決の一助にならねばなりません。これは彼らにとって道徳的に正しいことです。

私たちは慈善活動を超えて構造的な改革に取り組みます。慈善活動は大切ですが不十分です。慈善活動の総額は毎年わずか240億ドルとされます。私たちが直面している課題を解決するには数兆ドルが必要です。政府にお金がなくとも富裕層にはあります。ですから政府は私たちに課税してください。政治に関わ



コペンハーゲンで環境活動家のグレタ・トゥンベリさんと交流するジャファーさん—2020年1月20日（ジョナス・クレーガーセンさん撮影、写真はいづれもヒューマン・アクト財団提供）

る人々は「より良い世界、より持続可能な地球のために何ができるか」を自問しなければなりません。

—他の富豪の反応はどうか。

残念ながら一部の富豪はこの活動にまだ参加していません。18年9月に国連で（マイクロソフト創業者の）ビル・ゲイツ氏と話をしたところ、「課税されたくない。1%でさえも嫌だ」と言っていました。彼らは課税を恐れています。それでも私たちは前に進まねばなりません。彼らが富裕税を受け入れるよう市民の側が圧力をかける必要があります。

ウォルト・ディズニー共同創業者の孫であるアビゲイル・ディズニー氏は団体の一員です。書簡にも名を連ねています。彼女は「極度の貧困を根絶するためにもっと多くのことをすべきだ」と語っていました。今後私たちはできるだけ多くの富裕層をこの運動へ参画させたいと思っています。

私は、多くの億万長者が暗闇から抜け出せるよう手助けをしたいのです。

今日、最も裕福な上位1%は、巨万の富を租税回避地（タックスヘイブン）に隠しています。これは大きな間違いです。そのお金を何か良いことに使えば彼らは幸せになれる。暗闇から出て光の中へ入るのです。

朝、鏡で自分の姿を見て、子どもや孫たちの姿を見つめます。「より良い世界をつくるためにできることをしているよ」と彼らに伝えられるのです。仲間の億万長者に言いたい。「やってみてください。何を失う必要がありますか。暗闇から抜け出すために良いことに力を使ってみてください。より良い未来のためにエゴや欲望を捨ててください」

課税を避けるための理屈がトリクルダウン理論です。減税すれば彼らは多くのお金を持ち、多くのビジネスを行い、それは社会にさえ利益をもたらすというものです。

しかし、過去40年間でそれは間違いだったと証明されました。格差はますます拡大しています。多くの人々が極度の貧困に陥り、食糧やきれいな水が足りないために多くの子どもが6歳未満で亡くなっています。

私たちは人類の一部です。互いを慈しみ合う社会へと進まねばなりません。

—活動の原点は何ですか。

私は1961年にイランで生まれ、69年にデンマークへ移住しました。ホテルで掃除係として働く母のもと母子家庭で育ちました。必死に勉強し、必死に働き、不動産起業家になりました。多くが私を「たたきあげの男」と言いますが、それは違います。社会が私をつくったのです。無償で学校へ行き教育を受けられる福祉制度のおかげです。

私たちが地球にいられる時間は限られています。この世を去る前により良い社会を後世に残すため、社会に恩返しをしなければいけないのです。

私には3人の兄弟と1人の妹がいます。79年にイラン革命が始まり、弟はその時に病気で亡くなりました。兄の行方は今もなおわかっていません。もう一人の兄も戦争で体に深い傷を負いました。なぜ人は戦争で互いを殺し合うのでしょうか。いまだに多額を兵器の製造に使っています。それはまったく意味のないことです。

一資本主義、新自由主義は壊れているとおっしゃいました。社会主義、共産主義についてはどう思われますか。

私は、すべての人が100%平等になれる共産主義システムは信じていません。みな同じでなければいけないということではありませんが、極度の貧困や飢餓は根絶されるべきです。誰もが人間らしい生き方のできる社会を目指しています。

その達成には民主主義が必要です。

政治体制からいかに資金を得るかを考える際、金持ちのロビー活動がとても強力に立ちはだかります。少数の人々の手にある多額のお金が民主主義をも滅ぼす力をもっています。格差をなくす上で大きな脅威です。

しかし、政府は私たちがつくるものです。私たちは、適切な人を選び、適切な決定を下す議会を構築することができます。それが今後数年間の私たちの仕事です。草の根から上へ働きかけ、国民が「私たちは富裕税が欲しい」と訴えるのです。

民主主義が平等な社会をもたらすのです。

起業家、活動家。1961年イラン生まれ。69年デンマークへ移住。デンマーク工科大学を卒業後、建設会社を設立。その後、複数の不動産会社を経営。2016年、国連のSDGs達成と貧困の根絶を目指し富裕層資産の1%を拠出するよう求める財団「ヒューマン・アクト」を創設。

(Akahata2021 引用作成)